



ぶらな 山形市男女共同参画情報紙 vol.52 2018年3月発行(年2回発行) ●山形市企画調整部男女共同参画センター 山形市城西町二丁目2番22号 ☎023-645-8077 e-mail: tala@city.yamagata.yamagata.lg.jp



PTA会長頑張る
学校と保護者の架け橋に

- P2 ▶ 料理研究家 コウケンテツさんの講演から
食を通して家族コミュニケーション
～人が幸せになるワーク・ライフ・バランス～
- P4 ▶ ぶらな独占インタビュー
料理研究家 コウケンテツさん
- P5 ▶ ワーク・ライフ・バランス講演会 分科会

- P6 ▶ PTAのよさを知ってほしい
～二人の会長に聞きました～
高梨由起さん (山形市立明治小PTA会長)
寺西裕美さん (山形市立滝山小PTA会長)

- P8 ▶ information
「男女共同参画に関する作品」 審査結果

平成29年度 男女共同参画宣言都市事業 「男女共同参画に関する作品」 審査結果

応募総数 2,088点 (受賞者 敬称略)

たくさんのご応募ありがとうございました!

写真部門 応募総数15点	一行詩部門 大学・一般の部 応募総数63点	一行詩部門 中学・高校の部 応募総数2,010点
<p>※最優秀賞は該当なし</p> <p>最優秀賞</p> <p>「すいかと共に」 成田 重人 (あこや町)</p> <p>優秀賞</p> <p>「1人でやる!」 渡辺 千賀子 (城北町)</p>	<p>最優秀賞</p> <p>「パパ女子力高いね!」 娘に言われほほえむ妻 「これが今は普通だよ」と はにかむ私 ふとした言葉に家庭が和む 森谷 英治 (宮町)</p> <p>優秀賞</p> <p>なんとなくだけと間違っている気がする 彼はいつも私が嫌がることをして喜んで 彼のことが好きだから我慢しているけど これっていいのかな これってデートDVなんじゃないかな このもやもやをなくしたいな 今日:勇気を出して相談してみよう 佐々木 渚 (嶋北)</p> <p>優秀賞</p> <p>育休取ったお父さん 慣れない家事に子育て 頑張ってくれる彼に 「また惚れ直す」と照れながら言った お母さん 大沼 緑 (東北文教大学短期大学部)</p>	<p>最優秀賞</p> <p>「男らしさ」「女らしさ」 2色しかない世界より、 「自分らしさ」の数だけ 色あざやかな世界が見たい。 根田 優花 (商業高2年)</p> <p>優秀賞</p> <p>父は仕事、母は家事 そんな先入観を父は 「支え合っのが家族だ」 と正しい方へと導びいてくれた。 小林 叶 (蔵王一中3年)</p> <p>優秀賞</p> <p>差別があるけど勉強をあきらめない。 マラソンから学んだ。 男も女も みんな自由に目標をもっている。 夢中になったら、 その時からずっと幸せ。 男も女も関係なく、 幸せになる権利がある。 佐藤 美華 (山形舞学校中学校部1年)</p> <p>優秀賞</p> <p>近年、イクメンなるものが流行っている。 それに対して父は 「やって当然だ」と斬った。 そんな父親が増えるといいな 納谷 淳司 (商業高2年)</p>

編集後記
The Editor's Comment

私がぶらな編集協力員を始めたのは、わが子が幼稚園入学の年。その子がこの春ピカピカの小学1年生となる。親は不安でいっぱいだが、子は希望でいっぱいようだ。ご多分にもれず、わが家も「ラン活」を経てようやくランドセルが届いた。色とりどりのランドセルの中から「わたし色」を選ぶには苦労した。いつの頃からだろうか、ランドセルの色が赤と黒だけではなくなくなったのは、一行詩部門(中学・高校の部)最優秀作品に子どもたちのランドセルの様子が重なった。～「自分らしさ」の数だけ色あざやかな世界が見たい～
この春から新しい第一歩を踏み出すみなさんにエールを送りたい。(山下みどり)

編集協力員
山下みどり
杉山 宏行